

秋田県知事が四国の「じゃこ天」酷評後平謝り

秋田県の佐竹敬久知事は昨年10月23日の秋田市での講演で、四国の食事を「貧乏くさい」「酒もうまくない」などと酷評。批判を受け、2日後の記者会見で「不見識だった」と謝罪した。佐竹知事は四国4県の知事に書簡を送って謝罪。その際に、誘客推進と県産品の認知度向上に向けて各県が連携に向けて取り組むことが決まった。



11月13日の首相官邸で開かれた全国知事会議に出席した徳島県の後藤田正純知事と愛媛県の浜里要副知事と面会し、「じゃこ天は貧乏くさい」などとは四国の食事をけなした自身の発言を直接謝罪した。香川、高知両県の知事は会議を欠席し不在だった。会議終了後、取材に応じた佐竹知事は「大変申し訳なかったと、ひたすら平身低頭で謝った」と説明した。

11月15日には東京のJR有楽町駅前で四国4県と合同イベントを開き、5県の特産品セットを販売することに触れ「一緒に盛り上げましょう」と励まされた」とも述べた。

合同特産品販売会では話題の「じゃこ天」や「きりたんぼ鍋セット」(秋田)など各県の特産品詰め合わせを50セット限定で販売し、佐竹知事や愛媛県の中村時広知事らが肩を並べて各県の魅力をPR。愛媛県によると、一般客約800人に加え

マスコミ関係者も約100人が詰めかけにぎわったという。

じゃこ天メーカーらで作る宇和島蒲鉾協同組合は「結果的に全国から注目されるのはありがたい。食べると『貧乏くさい』じゃなく、美味しーと思ってもらえるはず。ぜひ味わってほしい」と話してるとのこと。



佐竹知事の発言を契機に、全国から注目を集めたじゃこ天。愛媛県西伊予市の「おがた蒲鉾」では、空港や駅などでの売れ行きが騒動以前と比べ1.5倍、2倍になったとか。ネットショップでも秋田県からの注文が増えたといい、社長は「(発言)当初は腹が立ったが、結果は『秋田県さまさま』だ」と話す。注文はオンラインが多く6割は秋田からで「秋田の殿様が失礼しました」と詫言る注文客もいたという。

海老名市の話題

中学校給食センター初公開 4月から全員に提供開始

今年4月から始まる海老名市の中学校給食を作る給食センターが海老名市の共同調理施設「食の創造館」東側に完成し、報道陣に初公開されました。



海老名市の中学校給食は選択制のデリバリー方式から、4月に全員制の給食センター方式に替わる予定です。完成し公開された給食センターは、3階建てで延べ床面積はおよそ2000平方メートル。最新の調理器具を導入し最大で4500食分を調理することができるといいます。中でも大きな特徴は食缶や食器をまとめて入れて学校まで運ぶことができる「コンテナ」。積み降ろしの省力化ができるもので、センターにはコンテナを丸洗いできる大型食洗器も設置されました。

海老名市の担当課長は「小学生と比較すると、栄養的にも量的にも1.3倍以上の量が必要なので量も十分に確保していきますけど、おいしい温かい給食を提供していきたいです」と話しています。



地震被災地の輪島市へ 支援物資

県央10市町村からの緊急支援物資を乗せたトラック2台が2月6日、厚木市のぼうさいの丘公園から石川県輪島市のマリントウン大テントに向けて出発、7日昼頃に現地に到着した。

これは厚木市と神奈川県トラック協会の災害時等救援物資輸送協定に基づき手配されたもの。2月2日の県央相模川サミットで、構成自治体の厚木市・愛川町・清川村・座間市・海老名市・相模原市に加え、昨年7月に広域連携協定を結んだ秦野市・伊勢原市、2011年に災害時相互応援協定を結んでいる大和市・綾瀬市の10市町村で物資を支援することが決まった。



支援物資は輪島市で特に必要なものを確認。飲料水約8200本、大人用紙おむつ約1万4900枚、ブルシート約1400枚、携帯用トイレ約4万7千枚が積み込まれ、山口貴裕厚木市長は「10市町村の思いを被災地に届けてほしい」と話した。個人的に支援金を寄付された方も大勢おられると思います。早く復興してほしいと願うばかりです。